

依存問題に対する対策

6団体が「案」を提示

日遊協P Tを中心に協議検討

遊技産業活性化委員会を構成する業界主要6団体(全日遊連、日工組、日電協、日電協、全商協、回胴遊商)は、9月8日に開かれた第3回会合で依存問題に関する各団体の対策案を提示した。

警察庁からは保安課、大門雅弘課長補佐、大野敦係長が出席した。同行は8月6日の第2回会合で、依存問題について団体ごとの対策を出すよう要請していた。リカバリサポート・ネットワーク(RSN)の西村直行代表理事も同席した。また、依存対策の当面の進め方として、先行している日遊協依存問題P T(プロジェクトチーム)を中心に、他団体は同P Tにオブザーバー参加する形で協議していくことを申し合わせた。

▽顧客対応 環境整備や冊子配布

各団体から出された今後の取り組みをのうち、「顧客対応」に関しては、「パチンコは適度に楽しむ遊びです」を基本とした共通標語

の使用、業界共通の取り組み(新聞等への広告掲載、依存問題ホームページ開設等)、店内環境整備(定時の店内アナウンス、ユニット等への標語貼付、顧客向けパンフレット、診断チェックシート配布等)、RSNの負担軽減のため依存問題以外の相談業務を引き受ける機関の設置、依存問題を抱える人を対象のセミナー開催等が挙げられた。

▽従業員対応 対応ガイドライン

「従業員対応」に関しては、日遊協が依存問題対応ガイドライン、自己申告プログラムの2つの提案を行った。依存問題対応ガイドラインの内容は、従業員のための問題取組の基本姿勢、健全な遊技方法提案とアドバイス、啓蒙啓発パンフレットの作成と配布、従業員教育等が挙げられている。自己申告プログラムは、本人、家族からの申請に基づき、会員カードについて、例えば1か月の使用金額の

上限を自己申告してもらい、上限に達すると玉・メダルが使用できないようにする。

▽遊技機の性能 液晶で呼びかけ

また、「遊技機の性能等」に関して、日工組が新型遊技機に搭載する新しい機能を提案した。これは遊技機と接続される玉貸しユニットに遊技者1人の累積金額や遊技時間がある設定値に達したとき「時間が長くなっております。休憩をとって適度にお遊びください」等の文言が液晶画面に表示されるとともに、入金、貸し玉等に対し、管理コンピュータで設定した値に達すると遊技を中止できるとしている。



日遊協の依存対策案を協議した依存問題P T

14団体に文書発信

依存問題対策のまとめ

パチンコ・パチスロ産業21世紀会(代表・阿部恭久全日遊連理事長)は9月18日、「遊技産業の依存(のめり込み)問題対策に関する文書の送付について」と題する文書を、日遊協など加盟14団体に発信した。内容は、9月8日の遊技産業活性化委員会各団体が考えた依存問題対策をとりまとめたもの。

依存問題P T

9月4日
本部会議室
出席委員等11人

ガイドラインなど3項目

日遊協の対策案まとめる

遊技産業活性化委員会の第3回会合(9月8日)で報告することを前提に、依存問題についての日遊協の対策案をまとめた。新たな対策案として、①問題対応のためのガイドライン策定とホールへの啓蒙 ②自己申告プログラム協力店制度 ③依存のリスクを明示したポスター等の掲示や店内放送——を提案することを固めた。このほか、カウンセリングのための全国巡回キャラバンの構想も出された。

活性化委員会・遊技機検討WG

日遊協「3年計画」を提案 7団体15人で初会合開く

遊技産業活性化委員会の遊べる

遊技機検討WG（仮称）（リーダー・

竹田隆 全日遊連機械対策委員長）

は9月22日、東京・市ヶ谷の全日遊連本部で初会合を開き、今後の進め方を話し合った。

メンバーは全日遊連、日遊協、日工組、日電協から3人ずつ、同友会、余暇進、PCSAから1人ずつ、計15人の構成になっている。進め方として、パチンコ機とパチスロ機は切り離して議論していくことを確認した。パチンコ機については、日工組の考え方が10月中旬までに示される予定で、それをたたき台に検討を進める。パチスロ機については、日電協が8月28日に警察庁から示された指導事項等（試験試験方法



（試験試験方法

の一部変更等）に合わせた対応を内部で調整したのち、改めて案を出すことになった。

現行遊技機検討会を吸収

会議の中で日遊協は、活性化委員会の目的をファンの拡大に置き、これに沿った同WGの行き方として、「遊技機の検討・開発」↓「テスト」↓「発表（パチンコ&パチスロフェスタ等で）」↓「ホ

ール導入」を3年のスパンで繰り返していく活動を提案した。また日遊協は、昨年夏以降続けられてきた現行遊技機検討会（全日遊連、日遊協、日工組の3団体で構成）を同WGが吸収したことから、同検討会実務者会議が打ち出していた「遊べる遊技機（入門機）」の開発を引き続き同WGで進めていくことも提案した。

なお、仮称となっているWGの名称については、全日遊連を中心に名称候補を出し合って決めることになった。

遊技産業活性化委員会

2WGのメンバー決定 各団体実務者から15人

遊技産業活性化委員会（委員長・伊坂重憲 全日遊連副理事長。全日遊連、日遊協、日工組、日電協、全商協、回胴遊商で構成）の第3回会合は9月8日、全商協会議室で開かれた。同委員会の下で具体的に活動する2つのワーキンググループ（WG）

構成団体及びその他のホール3団体（同友会、余暇進、PCSA）から実務者中心に選ばれた各WG15人。事務局は「遊べる遊技機検討」WGが全日遊連に、「遊技産業PR」WGが日遊協にそれぞれ置かれる。

「遊べる遊技機検討」

「遊べる遊技機検討」「遊技産業PR」（いずれも仮称）のメンバーが決定、同委員会からの指示に沿って活動に入ることを申し合わせた。メンバーは、活性化委員会の6

「遊べる遊技機検討」WGの協議事項は、ファンの多様なニーズに応えられる遊技機の検討と現行遊技機の問題点の改善。例えば、遊べる遊技機を始めとする多様な遊

技機の開発とホールへの導入促進、遊技機の評議会（遊技機がコンセプトに合致しているかを認定）設置等が考えられている。

「遊技産業PR」

「遊技産業PR」WGの協議事項は、新たなファンの創出とすそ野を広げるキャンペーンを中心に、誤った情報によるネガティブイメージの払拭、業界の正しい姿のPRの検討等となっている。各WGのメンバー次の通り。

（敬称略）

「遊べる遊技機検討」WG 〓 竹田隆（リーダー）、前村進哉、吉澤明紘（以上、全日遊連） 〓 内藤裕人、星野賢一、吉田猛（以上、日遊協） 〓 渡辺圭市、山口孝穂、保谷誠（以上、日工組） 〓 岩堀和男、海野雅行、高橋和起（以上、日電協） 〓 伊藤司（同友会） 〓 大原伸昌（余暇進） 〓 荒粉伸一（PCSA）
 「遊技産業PR」WG 〓 岸野誠人（リーダー）、横山真千（以上、日遊協） 〓 古川照雄、中村博之（以上、全日遊連） 〓 内ヶ島隆寛、中川尚也（以上、日工組） 〓 宮長幹男、下澤真（以上、日電協） 〓 斎藤孝雄、総田騰（以上、全商協） 〓 山崎智成、安藤政晴（以上、回胴遊商） 〓 金光淳用（同友会） 〓 金海基泰（余暇進） 〓 城山朝春（PCSA）

九州支部も参加で「9・9クリーンデー大清掃」 各支部も参加で全国規模に 487か所、 2894人

九州支部は9月9日に「9・9第2回クリーンデー大掃除の日」を実施した。昨年の「第1回」と同じく九遊連(ホール)、九遊商、回胴遊商九州支部が参加したほか、今回は日遊協6支部の有志会員も加わり日本縦断の大掃除を試みた。九州支部は146か所、参加151人で4.3tのゴミを集めた。日遊協の他の6支部、九遊連、九遊商、回胴遊商九州支部の実績を含めた合計は487か所、参加2894人で5.6tのゴミ収集量だった。6支部が不参加だった前回の数字と比べて254か所、参加1098人、収集量583kgのそれぞれ大幅のプラスとなった。各

平成26年9月9日結果

区分	個所	人員	ゴミ量(Kg)	距離(Km)
日遊協九州支部	146	1,151	4,334.5	575.5
日遊協他支部	150	1,088	662.3	544.0
九遊連(ホール)	103	333	330.2	166.5
九遊商・回胴支部	88	322	311.1	161.0
合計	487	2,894	5,638.1	1,447.0



九州支部、九遊連などの混成部隊が集合(福岡市博多区東嶺公園で)



「ごみ拾い侍」のパフォーマンスを受けた北海道支部

九州支部の「9・9クリーンデー大清掃」に呼応して「中島公園・すすきの地区ごみ拾いボランティア」が参加し、中島公園、すすきの地区二円を清掃し、12のゴミを収集した。天候にも恵まれ、参加者からは「清々しい気持ちでやれました。来年も」などの感想があった。

特別ゲストとして、ごみ拾いパフォーマンス集団「ごみ拾い侍」が参加し、演技を繰り広げて好評だった。

東北支部

店舗周辺など300人で

日遊協東北支部は9月9日、九州支部の「9・9クリーンデー大清掃」と連携して仙台駅周辺や会員各店舗地域での一斉清掃を行った。公衆、ニラク、高山商事、新栄会館、グローリーナスカなど約300人の会員が早朝から汗を流した。

北海道支部

250人で大々的に

すすきの地区など清掃

日遊協北海道支部は9月9日、九州支部の「9・9クリーンデー大清掃」に呼応して「中島公園・すすきの地区ごみ拾いボランティア」

団体の清掃距離をつなげると147kmとなり、鹿児島市からスタートしたとして、国道3号線、同2号線、同1号線経由で神奈川県茅ヶ崎市近郊まで達したことになる。

「ア活動」を実施した。

日遊協はじめ業界4団体、町内会、観光協会、警察など250人が参加し、中島公園、すすきの地区二円を清掃し、12のゴミを収集した。天候にも恵まれ、参加者からは「清々しい気持ちでやれました。来年も」などの感想があった。

日本遊技関連事業協会 NICHYUKYO

私たちは誇りをもって 大衆娯楽の開発・提供にあたります。

日本遊技関連事業協会は東日本大震災発生以来、被災地へのボランティア支援活動を行ってまいりましたが、防災林復旧の「みどりのきずな」プロジェクトに参加する等、引き続き支援活動を続けてまいります。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。

インタビュー「女性社員訪問」(株)ニラク

「スマートフォンの日々」好評連載中

日遊協 ホームページ 「日遊協」で検索！ 更新情報

広島土砂災害地の復興支援

堆積物の撤去に汗 中国・四国支部 延べ150人動員

日遊協中国・四国支部(後藤信行支部長)は、さる8月20日未明に発生した広島市北部の大規模土砂災害被災地の復興支援のため、9月9、10、11日(第1次)、同16、17、18日(第2次)の2波6日間にわたり、延べ150人のボランティアを派遣した。

参加した会員企業は、ナオ、ウチダ、プロバグループ、エビスワーク、アス・ワン、エムズ・ユイ、山佐アド・カミモト(順不同、(株)省略)の8社で、広島、岡山、山口県の企業。本部からも10日に白石良二ボランティア派遣総隊長(理事)、

18日に庄司孝輝会長が現地の惨状とボランティアの活動を視察した。**岩石、流木、家具などが**

第1次派遣の3日目、9月11日の活動を追った。この日、支部の参加者は29人。午前9時半ごろ同市安佐南区八木の仮設ボランティアセンターに集合した。センターは野菜の産直市場のスペースを利用して開設されていた。

センターから割り振られた作業は、八木地区の空き地の汚泥撤去と道路わきの溝の清掃。軍手、マスク、タオル、ビニール袋、飲み物などが支給され、スコップ、大量の土嚢

レーなど雑多なものが灰色の汚泥にまみれて堆積していた。汚泥をスコップですくっては土嚢袋に詰める単調な作業が続く。乾いた汚泥がホコリになって舞う。

センターから来た女性のリーダーが「30分働いたら必ず休憩をとりましょう。水を飲むようにしてください」と、てきぱき指示を出す。この日は気温30度を超える真夏日だった。

明暗が分かれた光景

付近に土砂流現場の1つがあり、住宅が何軒か壊滅し、残った家屋も無残にひしゃげていた。山のようになり上がった瓦礫の上で自衛隊員たちが片付け作業をしていた。ところが細い坂道を挟んだ隣の区画は土砂流に襲われず、住宅は一見無傷に見えた。このような、僅差で明暗が分かれた光景があちこちに見られた。

しかし、無事に見える家屋も水害などの被害に遭っていた。近くの住民から汚泥処理の要請があり、5人が分かれて女性リーダーと一緒に被災民家に。住宅は無事だったが、敷地に汚泥が厚く堆積していた。裏の石垣と住宅との70cmほどの隙間に堆積した汚泥を掻き出

しては土嚢袋に詰め込んだ。住人の老夫婦が「ありがとうございます、ありがとうございます」と何度も頭を下げていた。作業は昼食をはさんで続けられ、午後3時に全員が撤収した。

除去しても除去しても

「涙を流してお礼をいってくれる住民の方もいて、とても感激します。でも、なくなった方、家を失った方を思うとつらい」「いくら除去しても除去しても瓦礫や汚泥がなくならない。そんなとき、無力感に襲われます」と参加者は述べた。

被災地は同市安佐南区山本・緑井・八木地区、安佐北区可部・三入地区で、死者74人、住宅全壊19棟、半壊36棟、一部損壊46棟、床上浸水67棟、床下浸水158棟、避難者1676人となっている。中国・四国支部は災害発生で直ちにボランティア派遣を検討したが、遺体の捜索が最優先だったこと、二次災害の危険性があったことなどから、当初は一般のボランティアの活動範囲が制限され、同支部の派遣も9月に入ってからとなった。

◀(上)土砂流が家屋を潰しながら流れ下ってきた傷跡
(下)土砂流に襲われた民家の敷地から瓦礫、汚泥を処理 (写真はすべて安佐南区八木地区)



袋、手押し車の準備で出発した。坂と階段をひたすら登って、10分弱で現地についた。空き地は10m四方ほどで住宅地の中にあり、岩石、流木、家具、テレビのディスプレイ